あ・と・が・き

☆明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。
日高の軽種馬育成調教場の利用は順調に伸びており、1日の最高利用頭数が昨年3月に678頭を記録し、これまでの記録（H16年：583頭）を大きく更新しました。1歳馬の利用も9月から始まり、調教場では日ごとに若馬の調教頭数が増えてきている今日このごろです。

☆全員が道外出身である当センターの研修生にとっては、北海道の厳しい冬を迎えていると思いますが、若馬での騎乗訓練も始まり、寒さに負けず研修に励んでいます。昨年の11月には18年度の新研修生の選考が行われ、決定いたしました。これからも、生産地に貢献できる技術者を送り出すべく、優秀な人材の確保に努めてまいりますので、皆様のご支援・ご協力のほどお願いいたします。 (Y.H)

☆「たづな」欄は㈳競走馬育成協会の渡辺副会長理事に寄稿していただきました。近年、競走馬のライフサイクルにおける育成期の重要性が認識されてきました。当ＢＴＣも皆様のお役に立てるよう精進いたしますので、本年もよろしくお願いいたします。

☆「サイエンティストからの提言」欄は 2 回シリーズで競走馬のリハビリについて掲載します。育成牧場においても休養馬を管理されることが多いと思います。常磐支所のような施設はなくても、地域によっては温泉の利用はもちろんですが、川や海を利用し、応用できることもあると思います。リハビリの基本的な考え方をよく理解し、今後の競走馬の管理に役立ててほしいと思います。

☆「調査研究」欄：坂路走行は平地走行よりもわずかではあるが浅屈腱にかかる負担を軽減するという実験結果です。逆に深屈腱には負担を増加させる可能性もあるわけですが、不治の病・致命傷といわれる浅屈腱炎を予防するためにも、更なる研究を期待します。

☆アンケート結果にご協力ありがとうございました。前回の調査と比較して、内容は少しづつですが改善されているという結果に一安心しました。今後とも編集者一同、わかりやすくて役に立つ技術普及誌を目指して努力いたします。 (H.H)